

鬼怒中だより



第6号

令和7年1月9日（木） 発行者 校長 高橋 裕一

生徒信条 ～ 自ら判断し、実行し、責任を持とう ～

冬休み明けの集会の代わりに、校長室からミートを使い、生徒の皆さんにお話し

しました。今回は、「PRIDEについて考えてみよう」でした。



これは、鬼怒中学校の素敵なロゴマーク「鬼怒 PRIDE」です。平成22年の創立30周年記念として、このロゴマークが作成されました。「PRIDE」は「誇り」という意味で、鬼怒中生としての「誇り」を持って、頑張ってもらいたいという思いが伝わってきます。

「〇〇としての『誇り』を持つ」という言い方を良く耳にしますが、〇〇には、「日本人」、「栃木県民」、「宇都宮市民」が入り、「鬼怒中生」も当てはまります。私たちは、自分が住んでいる日本、栃木県、宇都宮市、そして通っている鬼怒中学校に「誇り」を持つことによって、所属意識が高まり、自信を持って、夢や希望に向かって進むことができます。

そして、その集団に「誇り」を持つ瞬間は、「君が代」や「(栃木)県民の歌」、「宇都宮の歌」を歌う時であり、鬼怒中生にとっては「校歌」を歌う場面です。ぜひ、これからも「鬼怒中生としての『誇り』」を持って、堂々と校歌を歌ってほしいです。

しかし、自分が所属する集団が「誇れる」ものでなければ、「PRIDE」＝「誇り」を持てません。「誇れる国、日本」、「誇れる県、栃木県」、「誇れる市、宇都宮市」となるためにはどうすればいいのでしょうか？まずは、自分たちにとって身近なものを誇れるようにすることです。つまり、自分たちが通う鬼怒中学校を「誇れる学校」にするために、一人一人が日々努力することが重要です。それでは、日々何をどのように努力すればいいのでしょうか？それは、「当たり前のことを当たり前にやる」ことです。例えば、日々の授業にしっかり臨んだり、掃除を一生懸命やったり、部活動に熱心に取り組んだり、他を思いやったりなどです。「当たり前のことを当たり前にやる」を一人一人が心がければ、様々なことが良くなっていきます。そうすれば、必ずや鬼怒中学校を「誇れる学校」にすることができるでしょう。さあ、皆さん。皆さんの手で、鬼怒中学校を「誇れる学校」にしていきましょう！！

「誇れる学校」にするためには、一人一人が「当たり前のことを当たり前にやる」ことが大切

「部活動の地域移行」について



日本全国の中学校において、今一番と言っていいくらい議論されているのが、「部活動の地域連携・地域移行」に関してです。その背景にあるのが、「少子化」と「教職員の働き方改革」です。今後少子化が急速に進み、宇都宮市でも15年後には生徒数が68%になり、教職員数も減少します。また、教職員希望者が減少する中で、働き方改革が推し進められていますが、教職員の時間外勤務は改善されず、部活動指導がその要因の一つとされています。部活動顧問の約4割は専門外で、普段の練習の指導や大会での審判や役員等の業務は膨大です。部活動はまさに、教職員のボランティアで支えられているのです。しかし、部活動は教職員が生徒と向き合う貴重な時間であり、忍耐力・責任感・協調性など社会性を養う素晴らしい活動です。現在の部活動の形に変わる新たな仕組みを構築し、生徒の活動機会と活動量を確保しつつ、増大する教職員の負担を軽減していく取組を加速していく必要があります。

県は、「とちぎ部活動移行プラン」を策定し、「令和7(2025)年度までに、全ての公立中学校の休日の部活動を1つ以上、地域クラブ活動にすることを目指す」という目標を掲げ、令和5年度から各種実証事業を展開してきました。実証内容と成果、今後の方向性、休日の地域クラブ活動に関するアンケート等が記載されている資料「【栃木県】 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）」

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m12/bukatsu/documents/20241003150704.pdf> を参考にしてください。

宇都宮市では、県の意向を受け、「令和7年度末までに、各校一つ以上『平日は学校部活動で、休日は地域クラブ活動で』を目指す」、「令和8年度以降、休日の部活動の地域移行を拡大」、「平日の部活動の地域移行は、休日の地域移行の状況を見極めて検討」という方針を打ち出しております。それに伴い、宇都宮市では、「宇都宮市部活動地域連携・移行推進協議会」を立ち上げ、部活動地域移行支援業務コーディネーターを中心に目標達成に向けて取り組んでおります。コーディネーターは宇都宮市立の全ての中学校、全ての中体連専門部からヒアリングを行い、情報収集をした上で、各中学校、各専門部に応じた提案やアドバイスを行っております。しかし、地域連携・地域移行に向けて、受け皿団体や指導者の確保が大きな問題となっており、一筋縄ではいかない状況です。



本校の現状をお知らせいたします。本校は15年後に生徒数が現在の462人から314人に減少し、教諭数も現在の25人から18人になると試算されております。生徒数や教職員数減に伴い、現在の運動部12部、文化部2部を維持するのは困難と考えられます。少人数の部活動は、近隣校と連携し、「地域クラブ」を立ち上げる必要が出てきます。しかし、学校や地域の状況には違いがあり、それぞれの特性に応じた受け皿作りを考えなければなりません。モデルとしては、「PTA等既存組織への移行」、「複数校で受け皿組織を作る」、「総合型地域スポーツクラブへの移行」、「既存民間クラブへの移行」などが考えられます。様々な考え方がありますが、大切なことは学校や地域の実情に合った組織作りを行っていかねばならないということです。そこで、鬼怒地域にはどのような人的・組織的資源があるのか、どのように運営していくのがいいのかなどを丁寧に伺っていく必要があります。下記に今後の流れをお示しいたしますので、ぜひともご理解・ご協力をお願いいたします。

- | | | |
|----------|---------------------------------|----------------------|
| 令和7年1月上旬 | ・教職員への説明・意見交換 | ・保護者への説明（学校だより第6号にて） |
| 令和7年1月下旬 | ・鬼怒地域スポーツ関係者との懇談会（校長からの説明・意見交換） | |
| 令和7年2月中旬 | ・地域協議会にて、会員への説明・意見交換 | |

上記の説明会・懇談会等を通して、休日の地域移行の受け皿に関する情報収集と可能性のある部活動の検討を行っていきます。そして、指導者の確保と運営体制の構築を行い、「地域クラブ」立ち上げに進んでいければと考えております。ご協力お願いいたします。